



特別企画 日韓国交正常化60周年記念

韓国美術の玉手箱

— 国立中央博物館の所蔵品をむかえて —

Special Thematic Exhibition

Celebrating the 60th Anniversary of the Normalization of Diplomatic Relations between Japan and the Republic of Korea

Treasure Trove of Korean Art:

A Collaborative Exhibition with the National Museum of Korea

한일 국교정상화 60주년 기념 특별기획

한국 미술의 보물상자 — 국립중앙박물관 소장품 초대전

特別企画 日韓外交正常化 60 周年記念

韓国美術の玉手箱 — 国立中央博物館の所蔵品をむかえて —

한일 국교정상화 60 주년 기념 특별기획

한국 미술의 보물상자 — 국립중앙박물관 소장품 초대전

Special Thematic Exhibition

Celebrating the 60th Anniversary of the Normalization of Diplomatic Relations between Japan and the Republic of Korea

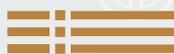
Treasure Trove of Korean Art: A Collaborative Exhibition with the National Museum of Korea

会期 令和 8 年 (2026) 2 月 10 日 (火) ~ 4 月 5 日 (日)

会場 東京国立博物館 本館 特別 1 室、2 室

主催 東京国立博物館、韓国国立中央博物館

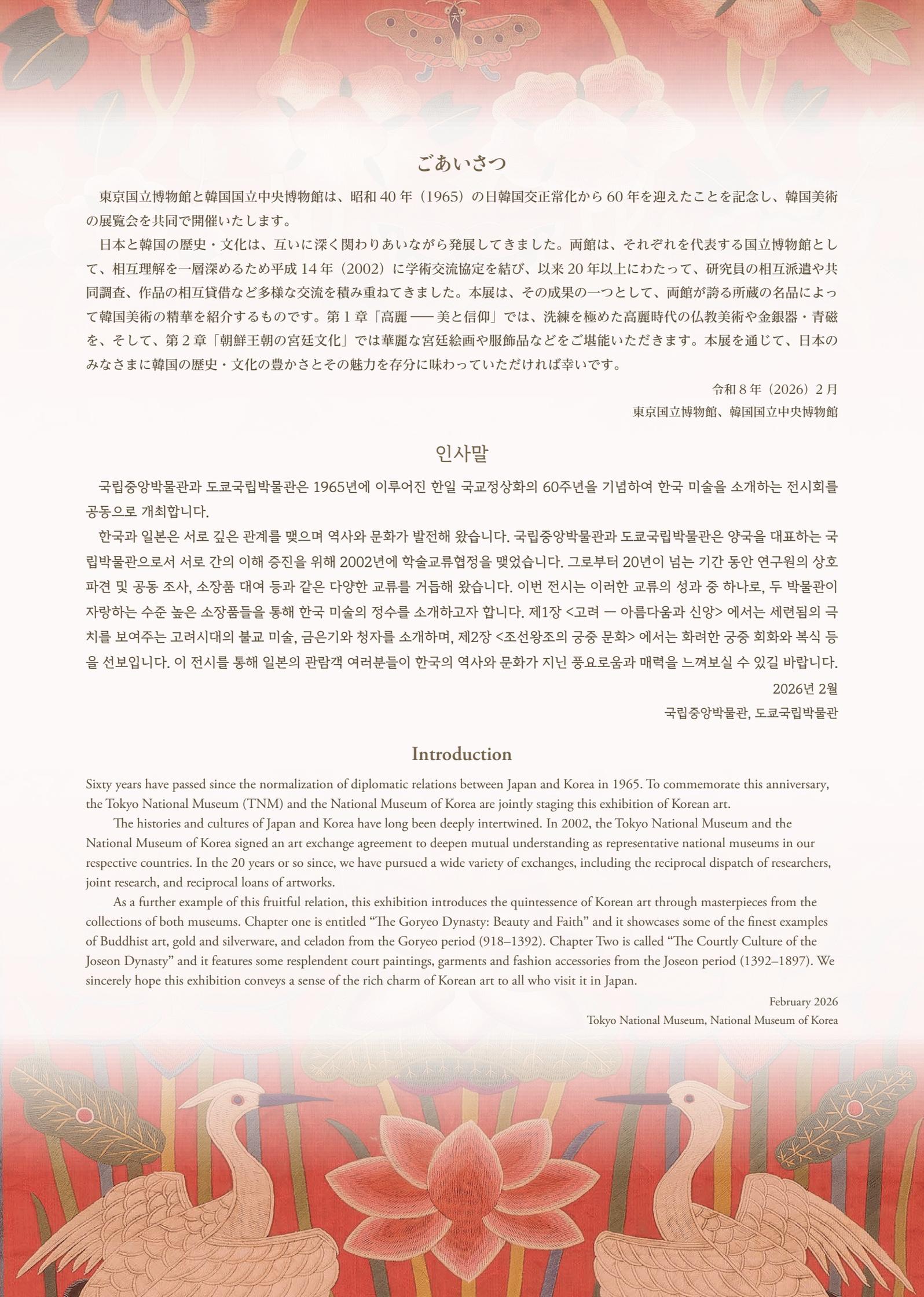
 東京国立博物館
TOKYO NATIONAL MUSEUM

 国立中央博物館
NATIONAL MUSEUM OF KOREA

 Japan
Creator
Support
Fund

凡 例

- ・本書は、令和 8 年 (2026) 2 月 10 日 (火) ~ 4 月 5 日 (日) に東京国立博物館で開催する「特別企画 日韓外交正常化 60 周年記念 韓国美術の玉手箱 — 国立中央博物館の所蔵品をむかえて —」の主な展示品を紹介するものである。本書の構成は陳列順とは必ずしも一致しない。
- ・図版には、原則として作品リストの番号、指定 (日本：重要文化財、韓国：宝物、国家民俗文化遺産)、作品名称、作者・出土地、時代・世紀、所蔵を付した。
- ・作品解説は、No.2、32 を除き、韓国国立中央博物館からの提供を受けた。No.2 は植松瑞希、No.32 は六人部克典 (以上、東京国立博物館) が執筆した。
- ・章解説は玉城真紀子、コラム 1 は児島大輔、コラム 2 は玉城真紀子、コラム 3 は三笠景子、コラム 4 は廣谷妃夏 (以上、東京国立博物館) が執筆した。
- ・展示企画は、猪熊兼樹、植松瑞希、小山弓弦葉、児島大輔、鄭雲卿、玉城真紀子、沼沢ゆかり、廣谷妃夏、三笠景子、六人部克典 (以上、東京国立博物館) が担当し、梁成赫、李泰熹、柳承珍 (以上、韓国国立中央博物館) の協力を得た。
- ・図版は、No.2、32 を除き、韓国国立中央博物館からの提供を受けた。No.2、32 は藤瀬雄輔、吉岡由哲 (以上、東京国立博物館) が撮影した。
- ・英語翻訳は、ダニエル・モラン (DJM TRANSLATIONS)、韓国語翻訳は鄭雲卿、朴祥炫、金正正 (以上、東京国立博物館) が担当した。
- ・表紙デザインは松田洋和が担当した。
- ・編集は玉城真紀子、東京国立博物館出版企画室が担当した。
- ・表紙掲載作品は、No.5、7、10、11、25、29 である。



ごあいさつ

東京国立博物館と韓国国立中央博物館は、昭和40年（1965）の日韓外交正常化から60年を迎えたことを記念し、韓国美術の展覧会を共同で開催いたします。

日本と韓国の歴史・文化は、互いに深く関わりあいながら発展してきました。両館は、それぞれを代表する国立博物館として、相互理解を一層深めるため平成14年（2002）に学術交流協定を結び、以来20年以上にわたって、研究員の相互派遣や共同調査、作品の相互貸借など多様な交流を積み重ねてきました。本展は、その成果の一つとして、両館が誇る所蔵の名品によって韓国美術の精華を紹介するものです。第1章「高麗——美と信仰」では、洗練を極めた高麗時代の仏教美術や金銀器・青磁を、そして、第2章「朝鮮王朝の宮廷文化」では華麗な宮廷絵画や服飾品などをご堪能いただけます。本展を通じて、日本のみなさまに韓国の歴史・文化の豊かさとその魅力を存分に味わっていただければ幸いです。

令和8年（2026）2月
東京国立博物館、韓国国立中央博物館

인사말

국립중앙박물관과 도쿄국립박물관은 1965년에 이루어진 한일 국교정상화의 60주년을 기념하여 한국 미술을 소개하는 전시회를 공동으로 개최합니다.

한국과 일본은 서로 깊은 관계를 맺으며 역사와 문화가 발전해 왔습니다. 국립중앙박물관과 도쿄국립박물관은 양국을 대표하는 국립박물관으로서 서로 간의 이해 증진을 위해 2002년에 학술교류협정을 맺었습니다. 그로부터 20년이 넘는 기간 동안 연구원의 상호 파견 및 공동 조사, 소장품 대여 등과 같은 다양한 교류를 거듭해 왔습니다. 이번 전시는 이러한 교류의 성과 중 하나로, 두 박물관이 자랑하는 수준 높은 소장품들을 통해 한국 미술의 정수를 소개하고자 합니다. 제1장 <고려 — 아름다움과 신앙>에서는 세련됨의 극치를 보여주는 고려시대의 불교 미술, 금은기와 청자를 소개하며, 제2장 <조선왕조의 궁중 문화>에서는 화려한 궁중 회화와 복식 등을 선보입니다. 이 전시를 통해 일본의 관람객 여러분들이 한국의 역사와 문화가 지닌 풍요로움과 매력을 느껴보실 수 있길 바랍니다.

2026년 2월
국립중앙박물관, 도쿄국립박물관

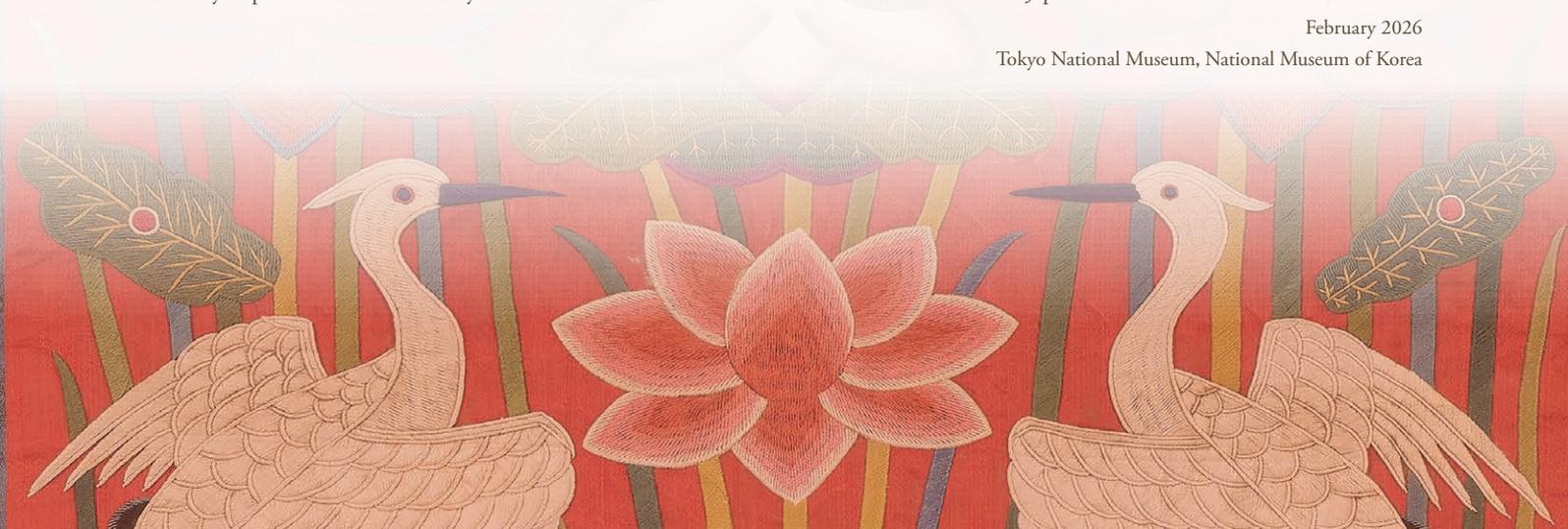
Introduction

Sixty years have passed since the normalization of diplomatic relations between Japan and Korea in 1965. To commemorate this anniversary, the Tokyo National Museum (TNM) and the National Museum of Korea are jointly staging this exhibition of Korean art.

The histories and cultures of Japan and Korea have long been deeply intertwined. In 2002, the Tokyo National Museum and the National Museum of Korea signed an art exchange agreement to deepen mutual understanding as representative national museums in our respective countries. In the 20 years or so since, we have pursued a wide variety of exchanges, including the reciprocal dispatch of researchers, joint research, and reciprocal loans of artworks.

As a further example of this fruitful relation, this exhibition introduces the quintessence of Korean art through masterpieces from the collections of both museums. Chapter one is entitled “The Goryeo Dynasty: Beauty and Faith” and it showcases some of the finest examples of Buddhist art, gold and silverware, and celadon from the Goryeo period (918–1392). Chapter Two is called “The Courtly Culture of the Joseon Dynasty” and it features some resplendent court paintings, garments and fashion accessories from the Joseon period (1392–1897). We sincerely hope this exhibition conveys a sense of the rich charm of Korean art to all who visit it in Japan.

February 2026
Tokyo National Museum, National Museum of Korea



高麗——美と信仰

王建（ワン・ゴン）によって建国された高麗（918～1392）は、後三国の混乱を終結させ、分裂していた三国を統一した王朝である。建国から間もなくして外勢の脅威や内乱など不安定な状況に直面しながらも仏教を国の理念として掲げ、国の安泰や救済への祈りを仏教美術として昇華させた。さらに、高麗は自らの伝統文化を基盤に、周辺諸国の技術や様式を柔軟に取り入れ、金銀器や青磁などの独自の美術工芸を生み出した。さらに、高麗の美術作品は貴族たちの極めて洗練された趣味が反映され、現在でも韓国美術を語る上で欠かせない存在となっている。

仏教美術

5 観音菩薩坐像

관음보살좌상

Seated Avalokiteśvara

高麗時代・13世紀

韓国国立中央博物館

左足を下に垂らし、右膝を立ててその上に腕を自然に掛けた、遊戯坐の姿勢をとる観音菩薩像である。このような姿は、『大方広仏華嚴経』「入法界品」に登場する補陀落山の岩石上の観音菩薩を描いた高麗時代の水月観音図に見られるが、立体による高麗時代の現存作例は本像が唯一である。端正で厳粛な表情の顔と、すらりとした体の表現に、華麗な瓔珞装飾が加わった美しい像である。最近の韓国国立中央博物館の調査により、材質はマツとモミであり、その年代は1220～85年であることが明らかになった。像の内部から発見された『大随求陀羅尼経』の13世紀の木版本により、造立年代を裏付けることができる。また像の下腹部から、朝鮮時代前期の15世紀に追納された納入品が発見され、本像の修理の時期も確認された。



コラム 1 観音菩薩坐像の納入品

本像はマツとモミを用いた木彫像で、内削りを施した上で内部に納入品を納める。今回は膨大な納入品の一部を紹介する。まず、頭部内には高麗版と見られる『大随求陀羅尼經』と用途不明の金属器や五色の糸が納められていた。これらは造像当初の納入品と見られる。

また、体部内の像底からおびたしい数の納入品が発見された。その内容は五宝瓶、五輪塔の各部をかたどった鉛を含む錫製の鏡、五大種子を記した絹織物片と、金剛界五仏種子を記した麻布片、真珠や鉱物、菜種等の植物質のものなどである。このうち、五宝瓶はいわゆる梅瓶型で木製漆塗りとし、中央の1口のみ漆箔仕上げとする。よく似た形の賢瓶と呼ぶ器用に、金・銀・真珠・瑠

璃・水晶といった五宝ないし七宝に加えて、五穀、五葉、五香を納めて地中に埋め、鎮壇具とした例が、京都御苑内の近世公家屋敷跡などから出土しており興味深い。日本で同種の像内納入品は知られない。また、絹織物はそれぞれ文様を織り出す絢爛な繻子織で、納入品の願主と関わりのある由緒を持つものの断片である可能性もあろう。これら体部の納入品は朝鮮時代前期（15世紀頃）、本像の修理に際して納入されたものと考えられる。

納入品は、本像が世代を超えて大切にされたことと、人びとが像内空間に密教的の小宇宙を作り出そうとしたことを教えてくれるのである。



観音菩薩坐像 (No.5) 頭部内納入品



観音菩薩坐像 (No.5) 体部内納入品

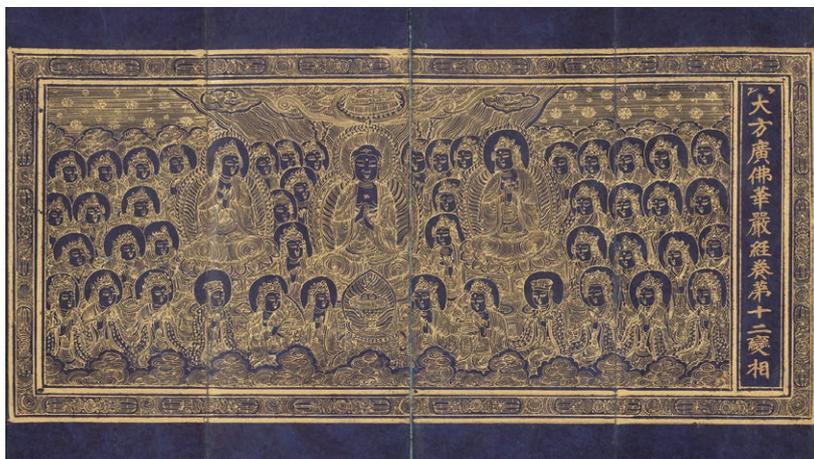
4 大方広仏華嚴經 卷第十二

대방광불화엄경 권12

The Avatamsaka Sutra (Flower Garland Sutra),
Volume 12

高麗時代・14世紀
韓国国立中央博物館

『大方広仏華嚴經』は、『法華經』と並んで韓国仏教において最も重要な經典であり、40巻、60巻、80巻の3種の漢訳本がそれぞれ普及した。本作は、60巻本のうちの第12巻（「功徳華聚菩薩十行品第十七之二」および「菩薩十無尽藏品第十八」）を、紺紙に銀泥で書写した折帖である。「菩薩十行」とは、衆生の救済のために、菩薩が実践すべき10の尊い修行であり、「菩薩十無尽藏」とは、菩薩が具えるべき、尽きることのない10の徳目である。罫線の中には、経文が1行17字ずつ、楷書体で端正に書写されている。表紙には、花や蔓草文様を金銀泥で華やかに描く。経文の前には『華嚴經』の本尊である智拳印を結ぶ毘盧遮那仏と眷属を描いた変相図が加えられ、仏の世界が表現されている。金泥をふんだんに用いた華麗で鮮明な変相図であり、14世紀高麗写経の優れた制作技術を示す好例である。紙質および書写技術に優れた高麗写経は、国内外に高い需要があり、11世紀以降、中国・元の要請により写経用の紙を送ったり、写経僧を派遣したりした記録も多く残されている。



(変相図)



(経文部分)



1 宝物 五百羅漢図 (第九十二守大蔵尊者)

오백나한도(제92 수대장존자)

The Five Hundred Arhats: The 92nd Arhat Sudaejang

高麗時代・高宗 22 年 (1235)

韓国国立中央博物館

円光を備えた白髪^{びやく}の尊者が、老木と黒っぽい机の間に座っている。画面の上と下にある銘文から、高宗 22 年当時、下級の武官であった金義仁^{キム・ウィイン}らが発願した「五百羅漢図」のうち、第九十二守大蔵尊者であるとわかる。両手で蓮華座上の丸い瓶を捧げ持っており、その細長い口から一筋の光が放たれて天に届いている。瓶の中から光を放つ舍利^{せり}を供養している姿であろう。墨主体で描かれているが、円光や袈裟^{せうさ}、舍利瓶などには部分的に彩色が施され、さらに金泥で華麗な装飾文様が描き込まれている。裏面には、書画收藏家である呉世昌^{オ・セチャン} (オ・セチャン、1864 ~ 1953) の跋文^{はつぶん}が貼られており、かつて黄海道^{ファンヘド} (ファンヘド) の神光寺^{しんこうじ}にあった「五百羅漢図」のうちの 1 幅であることがわかる。

7 銅製銀象嵌香炉

청동 은입사 향완

Incense Burner

高麗時代・13 世紀 韓国国立中央博物館

高麗時代には香の文化が発展し、仏教においても香りによる供養が盛んに行なわれ、仏壇の前で用いる香炉の形も多様に展開した。本作のように、縁の広い鉢の下にラッパ形の台座が付いた形を香垵^{こうわん}と呼ぶ。香垵は青銅で铸造されることが多く、細かい文様を彫って銀線をほめ込む技法で装飾することがある。韓国ではこれを「銀入糸」と呼ぶ。本作の胴体と台座にも、梵字 4 字、蓮華や蔓草、葡萄文様などが銀入糸で表されており、高麗時代の金属工芸の高度な技術水準が示されている。緑の裏面には、高麗の熙宗 (在位 1204 ~ 11) の王妃、咸平宮主が「華嚴経蔵」に奉安するために制作したという銘文が刻まれる。高麗の王妃が発願した香垵としては唯一の現存作例であり、仏像の安置される仏殿ではなく、経典を保管する経蔵においても香が供養されていたことを確認できる重要な資料である。



2 五百羅漢図 (第二十三天聖尊者)

오백나한도(제23 천성존자)

The Five Hundred Arhats: The 23rd Arhat Cheonseong

高麗時代・高宗 22 年 (1235)

東京国立博物館

金義仁らが発願した一連の五百羅漢図は、制作年が記された高麗仏画のなかで現存最古の作例である。蒙古の侵攻を受けていた厳しい時代に、国土の平安と王の長寿を願って制作された。500 幅に及んだであろう羅漢図のうち、現在のこっているのは十数点だが、複数人の画家が手分けして制作したため、その中に画風の違いが認められる。第二十三天聖尊者を描いた本作は、端正で堅実な形態把握と、緻密で丁寧な彩色を特徴とする。近年の修理を経て、羅漢・僧侶の皮膚の色、歯や爪の白色、衣の白や黄色が見えやすくなった。



コラム 2 | 金鼓に刻まれた名工

金鼓とは、供養の時間を知らせる時などに打ち鳴らす円盤型の梵音具で、統一新羅期に登場し、高麗時代を中心に製作された。側面に刻まれている銘文には、高麗国王の長寿と国家の安泰を祈る言葉に加え、康宗（在位 1211～13）の娘である寿寧宮主を護衛した寿寧宮主房侍衛軍の公節（コンジョル）という人物が、亡き妻を供養する内容が記されている。発願者には、公節とこの金鼓を用いた高嶺寺の住職、恵成（ヘソン）とともに、同じく寿寧宮主房侍衛軍の仲叙（ジュンソ）の名も見える。

仲叙は高麗の首都、開京（ケギョン）で活躍した鍍金工匠、韓仲叙（ハン・ジュンソ）と同一人物とされ、その名は梵鐘など他の資料にも登場している。韓仲叙はのちに官匠として大匠の官職を授かり、武臣に与えられる階級制度である武散階において正七品にあたる別將同正まで昇進したことが確認される。このような工匠の社会的地位の向上は、蒙古侵入ののち工匠の数が大幅に減少したことが背景にあるとも考えられている。本作は韓仲叙の名が初出する資料であるとともに、高麗時代の工匠の製作の歩みや身分制度を復元する上で重要な作品と位置付けることができる。



9 青銅金鼓

청동 금고(북)

Gong

韓仲叙作 高麗時代・康宗 2 年 (1213)

東京国立博物館

(部分)

金銀器と青磁

10 「福寧宮房庫」銘銀製花形皿

은제 꽃 모양 접시

Six-lobed Dish with the Inscription "From the Residence of Princess Bongnyeong"

高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館

薄い銀板を打ち出して 6 弁の花形に作った皿である。口縁の内側には蔓草文様が彫られ、その周囲に小さな珠文がぎっしりと埋め込まれる。これら文様部分には金鍍金が施され、装飾効果を高めている。口縁の外側には「福寧宮房庫」という銘文が刻まれ、福寧宮主の居所で使用された器物であることがわかる。墓誌銘の記録によれば、福寧宮主は高麗の肅宗（在位 1095～1105）の四女、睿宗（在位 1105～22）の妹で、睿宗 9 年（1114）に宮主に冊封された。この皿は、12 世紀初頭の高麗王族の日常生活の一端を伝える資料でもある。



11 銀製八花形盃

은제 꽃 모양 잔

Eight-lobed Cup

高麗時代・10～14 世紀 韓国国立中央博物館



薄い銀板を打ち出して 8 弁の花形に作った盃である。内側に縁取りを設け、その中に小さな花文や珠文をぎっしりと彫り込み、金鍍金を施して装飾する。底の周りにも蓮弁文を彫刻し、金鍍金によって金銀の対比を作っている。本作のような、銀地に金鍍金の文様を刻んだ器物を金花と呼ぶ。また、底面には陰刻によって大きな菊花一輪が彫られている。高麗時代の金属器における多様な形態と装飾技法を確認できる好例である。口縁外側には「崔（チェ）」の字が刻まれている。この盃の所有者の姓を示すものと推定される。



12 宝物 銀製鍍金托盃

은제 금도금 잔과 받침

Cup with Stand

高麗時代・12世紀 韓国国立中央博物館

盃と台座からなる托盃で、銀地に金鍍金を施している。盃と台座はいずれも6弁の花形で、盃には同じ花形の小さな脚が付いている。盃の口縁や台座の底縁はすべてやや反り返り、繊細な装飾効果を生んでいる。盃と台座の表面には花文が彫られ、華やかに飾られており、盃の内側の底にも陰刻の牡丹文を確認することができる。台座の胴部には、打ち出し技法を用いた、浮彫りのように立体的な装飾がある。高麗時代には喫茶文化が発達しており、このような托盃は茶を飲む際に用いられたと推定される。同じ形の青磁製の托盃も多数伝わっており、仁宗元年(1123)に中国・宋からの使者として高麗を訪れた徐兢が著した『宣和奉使高麗図経』にも、花文を刻んだ銀製の托盃の姿が記されていることから、本作も12世紀に制作されたものと考えられる。

13 青磁十二弁花形皿

청자 꽃잎 모양 접시

Foliate Dishes

高麗時代・12世紀 韓国国立中央博物館

12枚の花弁が大きく開いた形をとる皿で、もとは5枚1組である。比較的薄造りで、底には3か所に珪石の目跡が残っている。淡い緑色を帯びた灰青色の美しい青磁で、高麗の首都があった開城近郊出土と伝えられるが、同種の青磁片が全羅南道(チョルラナムド)・康津(カンジン)の沙堂里(サダンリ)窯址からも出土しており、実際の産地がわかる。華やかな装飾技法はないが、宋の太平老人『袖中錦』で天下第一の色と称賛された、高麗青磁の美しい翡翠色が堪能できる。



15 青磁牡丹唐草文唾壺

청자 음각 모란 넝쿨무늬 타호

Spittoon with Peony Vines

高麗時代・12世紀 韓国国立中央博物館

漏斗状に開いた口の下に、小さな壺が取り付けられている。上の口の部分と下の壺の部分をそれぞれ作ってから接合したものである。この形の器は、宋または遼の墓室壁画に茶道具の一種として登場する。高麗においても、茶を淹れた後の茶葉を捨てる用途で制作された可能性が高い。このような唾壺は、主に高麗時代の王墓や貴族の墓から発見されており、高麗の上流階級が茶を楽しんでいた文化を確認できる。本作の出土地は不明であるが、器全体に優雅に施された牡丹文の装飾と美しい翡翠色から、王侯貴族が喫茶の際に使用したと推測される。

コラム3 | 高麗青磁の魅力

青磁とは、窯に燃料を連続して投入し、空気をできるだけ遮断する焼成法によって、素地と釉薬に含まれる鉄分が酸素を奪われ、還元されて青く見えるやきものである。光によってさまざまな青色の表情を見せるのが最大の魅力である。

高麗青磁は、中国において先駆的に青磁生産を行っていた越窯の技術を取り入れ、10世紀頃に成立した。安定したつややかな釉調に加え、細密で華麗な線刻や透彫り、象嵌といった独自の装飾技法を開花させ、12世紀に最盛期を迎える。高麗の工芸は仏教の繁栄を映した金銀器に象徴されることが多いが、高度な技術と洗練された美意識に裏付けられた青磁の展開も見逃すことはできない。いかにも貴族好みの高麗青磁であるが、近年、杭州や寧波、上海など、中国江南の都市遺跡や日本国内の遺跡からの出土、沈没船積載品としての報告が目撃されている。その数は決して

多いものではないが、北宋末期に高麗を訪れた徐兢という中国人が、「翡色」と呼ばれる美しい青磁があると驚きをもって伝えたように（『宣和奉使高麗図経』）、異なる土地、文化を生きる中国や日本の人びとも魅了したということを示す貴重な証である。



No.15 青磁牡丹唐草文唾壺（部分）

17 青磁陽刻饗養文香炉

청자 양각 도철무늬 향로

Incense Burner with Taotie Design

高麗時代・12世紀 韓国国立中央博物館

中国古代青銅器の一つ、方鼎の形を模して作られた青磁の香炉である。胴体の各面には想像上の動物である饗養が、脚部には蟬の文様が刻まれており、これらも青銅器の文様由来する。高麗は成宗（在位 981～997）の時代に本格的な儒教の礼制改革を開始した。また、毅宗（在位 1146～70）は『詳定古今礼』を編纂し、王室の吉礼大祀に関わる制度を整備した。この過程で、北宋の礼制が受容され、『宣和博古図』などの関連文献が参照された。本作は『宣和博古図』の挿図を通じて中国古代青銅器の形態や文様が高麗青磁に影響を及ぼしたことを示す好例と位置付けられる。



22 青磁象嵌山水人物文扁壺

청자 상감 산수와 인물무늬 편호

Flattened Jar with Landscape and Figures

高麗時代・13～14世紀 韓国国立中央博物館

胴体が平たく押しつぶされた形の青磁の壺で、前後の2面に8葉の菱形の枠を設け、建物、人物、竹、鳥などを象嵌で表している。竹林を背景に、2階建ての瓦葺きの建物から、庭に遊ぶ2羽の鷺鳥を見守る人物の姿は、中国の書聖王羲之（303～361）が鷺鳥を好んで観察したという故事を描く「観鵝図」に倣ったものと考えられる。このように青磁の装飾に絵画的主題が登場するようになるのは、明宗元年（1170）の武臣政変以降、高麗社会に思想的変化が生じた後のことであり、高麗と中国・元の知識人階級における活発な交流に由来するものと解釈できる。

朝鮮王朝の宮廷文化



第8図 漢江舟橋還御図



第7図 還御行列図



第6図 得中亭御射図



第5図 西将台夜操図

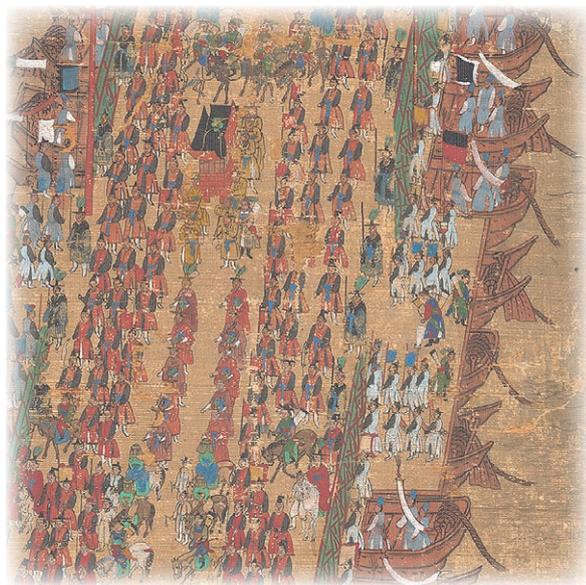
23 華城園幸図屏風

화성원행도

Events from King Jeongjo's Visit to Hwaseong

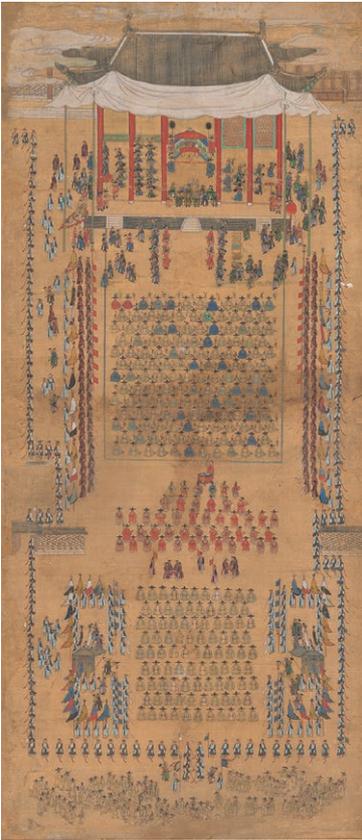
金得臣ほか筆 朝鮮時代・正祖 19年 (1795) 韓国国立中央博物館

第22代国王の正祖（在位 1776～1800）が正祖 19年、母である惠慶宮洪（ホン）氏の還曆にあたり、父の思悼世子の墓所である顕隆園を参拝し、華城（ファソン）に幸じた際の様子を描いた八曲屏風である。正祖は華城に到着すると、まず孔子を祀る郷校を訪れ（第1図）、科挙を実施してその合格者を発表することで（第2図）、儒教を統治の基盤とする理念を示した。また、母の還曆祝いや老人たちをもてなす養老宴（第3、4図）を盛大に開催し、両親と老人を尊重する儒教道徳を強調した。さらに、軍隊の夜間訓練（第5図）を実施し、帰途においては漢江（ハンガン）に舟橋を架けることで（第8図）、軍事面と技術面にわたる統治力を誇示した。威厳のある整然とした王の行列と、自由闊達な民衆の姿が対照的に描かれ、正祖の統治が成功し社会に浸透していたことを伝えている。

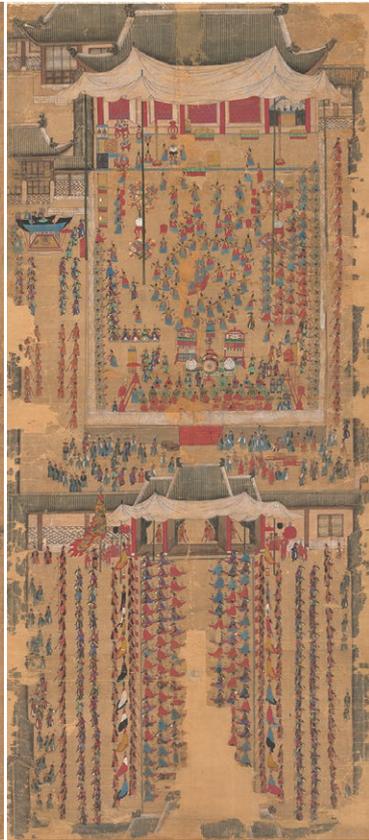


第8図 漢江舟橋還御図（部分）：華城からの帰路、正祖の行列が漢江を渡るために船を連結した橋が架かった場面。

朝鮮王朝（1392～1897）は儒教を統治の基盤とし、その理念は宮廷文化の形成にも大きな影響を与えた。宮廷の服飾は、身分秩序や儀式行事の在り方を明示するために厳格な規律のもとに整えられたが、その一方で気品に満ちた宮廷人の姿を伝えている。また、王の行幸を描いた絵画など、宮廷で描かれた書画には王の威厳と秩序の美が表され、礼節と品格を重んじる朝鮮時代の価値観がうかがえる。こうした美意識は、今日の韓国美術に通じる特色として受け継がれている。



第4図 洛南軒養老宴図



第3図 奉寿堂進饌図



第2図 洛南軒放榜図



第1図 華城聖廟展拝図



第5図 西将台夜操図（部分）：正祖が、華城の八達山（パルダ
ルサン）に築かれた西将台（指令場所）から兵士たちの夜間訓
練を行なった場面。



第3図 奉寿堂進饌図（部分）：華城行宮の奉寿堂にて、王母の
還暦を祝って催された宴会の場面。

24 国家民俗文化遺産 てきいぼん 翟衣本

적의 초본

Clothing Pattern for the Empress's Ceremonial Robe

20世紀初 韓国国立中央博物館



翟衣（チョグイ）は、高麗末期から朝鮮時代にかけて、王妃や王世子妃が国家の重要な儀式に臨む際に着用した大礼服である。朝鮮時代には赤地が用いられたが、国号を大韓帝国と改めた光武元年（1897）、王と王妃が皇帝と皇后に昇格したことで、濃青色の地に変更された。皇后の翟衣では、青・紅・白・黒・黄の5色で雉（翟）の文様が表された。雉は2羽で一対をなして12段に配置され、その間に大韓帝国の紋章である李花紋が入っている。本作は翟衣制作のために韓紙で作った見本であり、袖は残っていないが、実際の翟衣と近い寸法・形・文様を備えている。

25 かつい 闊衣

활옷

Woman's Ceremonial Robe

20世紀初 韓国国立中央博物館

闊衣（ファロッ）はもともと朝鮮時代の宮中女性の礼服であったが、19世紀末以降、両班（ヤンバン）や一般の婚礼服としての使用が許可され、新婦が結婚式で幣帛（ペベク）を捧げ、親族に挨拶する際に華麗な闊衣を着用できるようになった。後身頃が長い衣で、脇下が開き、胸前で紐を結ぶ。健康と長寿、幸福を祈る赤地に、多産を象徴する蓮、牡丹、不老草（靈芝）、鳳凰、白鷺、鴛鴦、蝶、岩、波、そのほか吉祥の意味をもつ器物などが多彩に刺繡されている。袖口には3色の色袖と白い汗衫（付け袖）が付けられる。襟には韓紙が当てられているが、これは新婦の頭に塗られた椿油が付着するのを防ぐためと考えられる。



前面



背面



29 紗帽

사모

Official's Hat (*Samo*)

19～20世紀 韓国国立中央博物館

紗帽（サモ）は、朝鮮時代の官僚が団領（단령）とともに着用した冠帽である。紙で帽子の骨組みを作り、黒い紗で表面を覆うため、烏紗帽とも呼ばれる。紗帽の形態は時代によりやや異なるが、一般的には鬚（まげ）があたる後方が高く、前方が低い形をとる。後頭部には、左右に広がる翼のような角（カク）を差し込むための仕組みがある。紗帽は幞頭（ぼくとう）から発展したもので、高麗時代の禡王13年（1387）に官僚の冠帽として初めて着用され、団領とともに官僚の礼服として朝鮮時代まで継承された。光武4年（1900）の文官大礼服制式の制定により、団領が官服から除外されると、紗帽も同時に姿を消したが、伝統的な婚礼における男性の正装として現代にも残されている。



30 国家民俗文化遺産 麒麟胸背 興宣大院君所用

홍선대원군 기린무늬 흉배

Prince Regent Heungseon's Insignia with Mythical Beast (*Qilin*)

朝鮮時代・19世紀 韓国国立中央博物館

朝鮮王朝の第26代国王（在位1864～1897）であり、大韓帝国初代皇帝（在位1897～1907）である高宗の父、興宣大院君李昰（イ・ハウン、1820～98）の麒麟胸背（ヒュンベ）である。朝鮮時代、王および王世子は金糸で龍を刺繍した円形の補（徽章）を袞龍袍（執務用の袍）の胸・背・両肩に付したのに対し、文武百官は職務や位に応じ、孔雀・虎豹・白鷗・熊羆・獬豸などの動物を刺繍した四角形の胸背を、団領の胸部と背中に付けた。そして、大君（王の嫡子）や大院君は、麒麟を刺繍した胸背を使用した。本作には、洒脱な表情と輝く鱗をもつ麒麟が、山々の上、雲間をかける姿で表されている。金糸を豊富に用い、一般官僚とは異なる華麗かつ精緻な作りを確認できる。

28 団領（官服）

단령

Official Ceremonial Robe (*Dallyeong*)

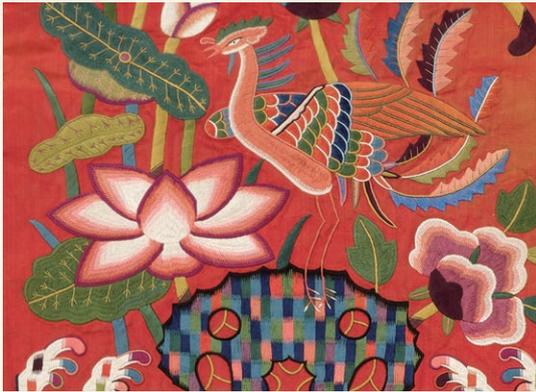
朝鮮時代・19世紀 韓国国立中央博物館

団領は、朝鮮時代の官僚が平時の執務に着用した官服である。胸と背に付けた四角形の胸背が着用者の位を示した。朝鮮初期にはさまざまな色の表地があったが、成宗（在位1469～94）以降、次第に鴉青色（赤みのある深い藍色）と土紅色（赤褐色）に簡素化された。本作は鴉青色の表地に青色の裏地を用い、単鶴胸背を付した朝鮮後期の団領である。丸い襟は時代により幅が異なり、襟ぐりの深さも変化する。本作の襟は幅が広く、襟ぐりが胸近くまであり、広い掛け襟が付されている点は、後期の特徴をよく示している。



コラム 4

韓国の刺繍



No.25 闊衣 (部分)

岩：チャリッ繡、蓮花：チャリヨン繡、牡丹の葉：カラム繡

韓国の人びとは、古くから身の回りの品々を針と糸で美しく飾ってきた。その主な担い手は女性たちである。朝鮮時代には、一般の女性たちが家族のために、福貴を願う図様を日用品に施した(民繡<ミンソ>)。宮廷では、刺繡の技能が認められた女性が幼い頃より繡房(スパン)に入り、服飾や調度など宮中御用の刺繡製品を制作した。この宮繡(クス)に用いられる生地や針・糸の製作は、それぞれ専門の官匠が受け持ち、下絵は宮廷の画工が担当した。高度に分業され、洗練された手仕事で宮繡を支えていた。

柔らかく燃りのない平糸を用いる日本刺繡と比べ、韓国の刺繡の特徴は、強い燃糸を多用した堅牢で綿密な表現といえよう。闊衣では、韓国刺繡に独特のチャリッ繡(畳のように一定に糸を刺す)や、チャリヨン繡(刺し繡、糸の長短を変えて刺し、色の変化を表す)、カラム繡(割り繡、中央線を軸に左右対称に斜めに刺す)などの技法に注目したい。こうした実直な繡技と、深く形式化した図様、濁りを忌む明るい色彩感覚があわさり、特有の風格が生まれている。刺繡が本来、家庭内で受け継がれ保持されてきた手わざであることを考えれば、これら絹糸の集合にも韓国文化の底流を見ることができるのである。



本幅



別幅

32 重要文化財 朝鮮国王国書及び別幅

조선 국왕 국서와 별幅

Diplomatic Correspondence from the King of Joseon with Appendix

朝鮮時代・肅宗 45年 (1719)

東京国立博物館

第19代朝鮮国王の肅宗(李焯<イ・トン>、在位1674~1720)が、江戸幕府第8代将軍の徳川吉宗に宛てた国書である。国書は国家間で交わされる外交文書で、吉宗の将軍襲職の祝賀を目的とした朝鮮通信使がこれを捧げた。祝辞となる挨拶文を記した本幅と、朝鮮の名産がならぶ贈呈品目録の別幅からなる。宛名には「日本国大君」と記され、朝鮮国王の諱「焯」字には国王の私印「為政以德」(塗印)が見られる。大判で厚手、滑らかで艶のある最上質の紙に、朝廷体ともいべき美しく整った楷書で記され、朝鮮王朝の外交と文化の粋を伝えている。

作品リスト

*作品リストは、番号、作品名称、指定(日本:重要文化財、韓国:宝物、国家民俗文化遺産)、作者、出土地、材質・技法、時代・世紀、所蔵、寄贈、所蔵番号を記した。

1	五百羅漢図 (第九十二守大藏尊者) 오백나한도(제92 수대장존자) The Five Hundred Arhats: The 92nd Arhat Sudaejang 絹本墨画淡彩 高麗時代・高宗 22 年 (1235) 韓国国立中央博物館 購 4997	宝物
2	五百羅漢図 (第二十三天聖尊者) 오백나한도(제23 천성존자) The Five Hundred Arhats: The 23rd Arhat Cheonseong 絹本墨画淡彩 高麗時代・高宗 22 年 (1235) 東京国立博物館、奥義制氏寄贈 TA-40	
3	阿弥陀三尊図 아미타삼존도 Amitābha Triad 絹本着色 高麗時代・14 世紀 東京国立博物館 TA-59	
4	大方広華嚴経 卷第十二 대방광불화엄경 권12 The Avatamsaka Sutra (Flower Garland Sutra), Volume 12 紺紙銀字 高麗時代・14 世紀 韓国国立中央博物館 健熙 10612	
5	観音菩薩坐像 관음보살좌상 Seated Avalokiteśvara 木造 高麗時代・13 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 953	
6	観音菩薩・毘沙門天像小仏龕 관음보살과 비사문천 작은 불감 Miniature Shrine with Avalokiteśvara and Vaiśravaṇa 伝朝鮮開城出土 銀、金製 高麗時代・11 ~ 12 世紀 東京国立博物館 TE-3	
7	銅製銀象嵌香炉 청동 은입사 향완 Incense Burner 金屬製 高麗時代・13 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 2375	
8	青銅淨瓶 청동 정병 Ritual Water Vessel 青銅製 高麗時代・12 ~ 13 世紀 東京国立博物館 TE-815	
9	青銅金鼓 청동 금고(북) Gong 韓仲叙作 青銅製 高麗時代・康宗 2 年 (1213) 東京国立博物館 TE-814	
10	「福寧宮房庫」銘銀製花形皿 은제 꽃 모양 접시 Six-lobed Dish with the Inscription "From the Residence of Princess Bongnyeong" 銀製 高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 131	
11	銀製八花形盃 은제 꽃 모양 잔 Eight-lobed Cup 銀製 高麗時代・10 ~ 14 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 807	

12	銀製鍍金托蓋 은제 금도금 잔과 받침 Cup with Stand 銀、鍍金 高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 130	宝物
13	青磁十二弁花形皿 청자 꽃잎 모양 접시 Foliate Dishes 陶製 高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 2065	
14	青磁碗・托 청자 그릇과 받침 Bowl with Stand 陶製 高麗時代・11 ~ 12 世紀 東京国立博物館 TG-40	
15	青磁牡丹唐草文唾壺 청자 음각 모란 넝쿨무늬 타호 Spittoon with Peony Vines 陶製 高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 3013	
16	青磁蓮唐草文瓶 청자 연꽃 넝쿨무늬 병 Vase with Lotus Vines 陶製 高麗時代・12 世紀 東京国立博物館 TG-4	
17	青磁陽刻饗餐文香炉 청자 양각 도청무늬 향로 Incense Burner with Taotie Design 陶製 高麗時代・12 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 8	
18	青磁鉄絵花卉文瓜形水注 청자 철화 화훼무늬 참외 모양 주전자 Melon-shaped Water Pitcher with Flowering Plants 陶製 高麗時代・12 ~ 13 世紀 東京国立博物館、横河民輔氏寄贈 TG-2123	
19	青磁象嵌梅竹蒲柳水禽文瓶 청자 상감 매화와 대나무, 부들, 버드나무, 물새무늬 병 Vase with Plum Tree, Bamboo, Reeds, Willows and Waterfowl 陶製 高麗時代・12 ~ 13 世紀 東京国立博物館 TG-2171	
20	青磁象嵌菊花文稜花形杯・托 청자 상감 국화무늬 꽃 모양 잔과 받침 Foliate Cup and Stand with Chrysanthemums 陶製 高麗時代・13 世紀 東京国立博物館 TG-70	
21	青磁象嵌蒲柳水禽龍首水注 청자 상감 부들과 버드나무, 물새무늬 용머리 주전자 Dragon-headed Water Pitcher with Reeds, Willows and Waterfowl 陶製 高麗時代・13 ~ 14 世紀 東京国立博物館 TG-176	
22	青磁象嵌山水人物文扁壺 청자 상감 산수와 인물무늬 편호 Flattened Jar with Landscape and Figures 陶製 高麗時代・13 ~ 14 世紀 韓国国立中央博物館 德寿 5610	

23	華城園幸図屏風 화성원행도 Events from King Jeongjo's Visit to Hwaseong 金得臣ほか筆 絹本着色 朝鮮時代・正祖 19 年 (1795) 韓国国立中央博物館 德寿 1042	
24	翟衣本 적의 초본 적의 초본 Clothing Pattern for the Empress's Ceremonial Robe 紙製、描繪 20 世紀初 韓国国立中央博物館 新収 6329	国家民俗文化遺産
25	闍衣 할옷 Woman's Ceremonial Robe 縵子(縵)、緞子(緞)、刺繡 20 世紀初 韓国国立中央博物館 東垣 4937	
26	鳥獸華角貼箱 화각 새와 짐승무늬 상자 Box with Birds and Animals 木製牛角貼 朝鮮時代・18 ~ 19 世紀 東京国立博物館 TH-283	
27	長生七宝簪・粧刀・眼鏡入 질보 십장생무늬 비녀, 장도, 안경집 Hairpin, Knife and Glasses Case with Symbols of Longevity 白銅製七宝 19 ~ 20 世紀 東京国立博物館 TE-1034	
28	団領(官服) 단령 Official Ceremonial Robe (Dallyeong) 紗(絹)、緞子(絹)、刺繡 朝鮮時代・19 世紀 韓国国立中央博物館 購 8694	
29	紗帽 사모 Official's Hat (Samo) 紋紗(絹) 19 ~ 20 世紀 韓国国立中央博物館 購 8696	
30	麒麟胸背 興宣大院君所用 흥선대원군 기린무늬 흉배 Prince Regent Heungseon's Insignia with Mythical Beast (Qilin) 縵子(絹)、刺繡 朝鮮時代・19 世紀 韓国国立中央博物館 新収 6327	国家民俗文化遺産
31	耆社契帖 기사계첩 Records of the Elder Statesmen's Association (書) 李義芳ほか筆、(画) 金振汝ほか筆 絹本着色 朝鮮時代・康宗 45 年 (1719) 東京国立博物館 A-9925	
32	朝鮮王国国書及び別幅 조선 국왕 국서와 별폭 Diplomatic Correspondence from the King of Joseon with Appendix 紙本墨書 朝鮮時代・肅宗 45 年 (1719) 東京国立博物館 B-1768-7-1 B-1768-7-3	重要文化財
33	大典会通 대전회통 Compilation of Korean Laws and Amendments 趙斗淳ほか編纂 紙本墨刷 朝鮮時代・高宗 2 年 (1865) 東京国立博物館 徳川宗敬氏寄贈 QB-10436	

特別企画 日韓国交正常化 60 周年記念

韓国美術の玉手箱 — 国立中央博物館の所蔵品をむかえて —

令和 8 年 (2026) 2 月 9 日発行

デザイン・制作・印刷: 精興社

編集・発行: 独立行政法人国立文化財機構 東京国立博物館

© 東京国立博物館 Tokyo National Museum

本書の無断転載、複製を禁じます。

